

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立東出雲中学校）

平成30年9月25日

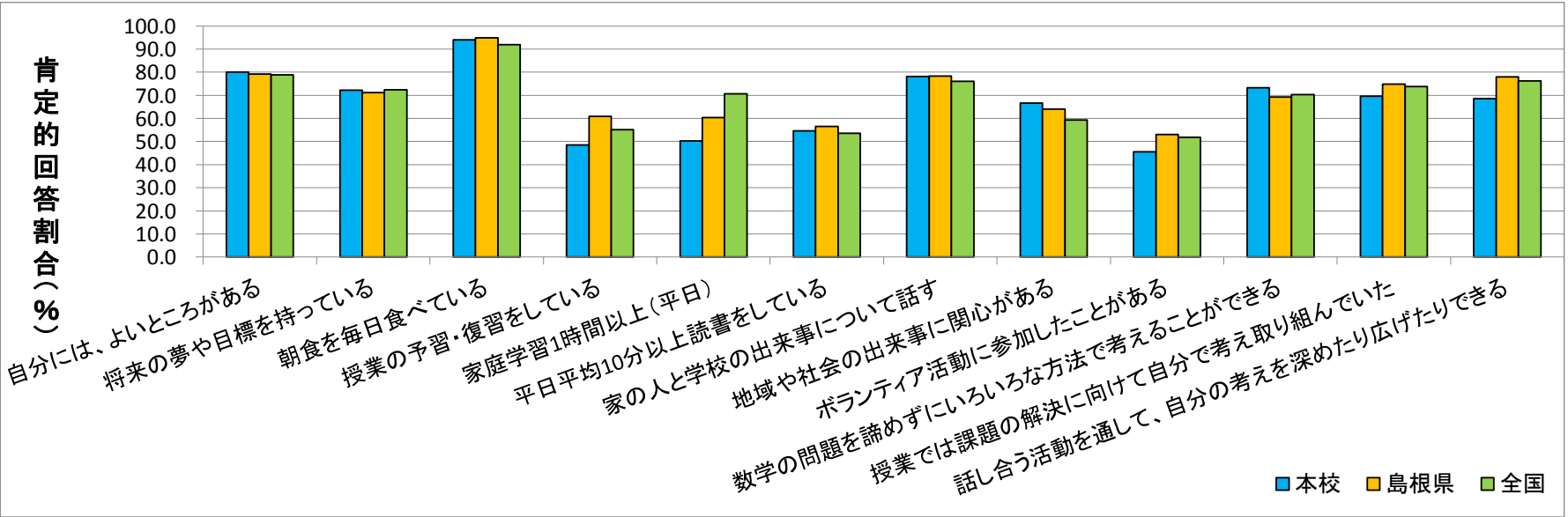
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語文化と特質に関する事項」に関する項目は県平均、全国平均を上回っている。 ●設問によっては無回答率が県平均、全国平均を上回るものがある。	・「話すこと・聞くこと」の力を伸ばしていくために、個人で自分の考えをまとめた上で、小グループで論点をしぼった話し合い活動やまとめる活動を工夫して取り入れていく。 ・記述することへの抵抗感をもつ生徒が多いので、身近な話題をテーマにしたり、文章の型を提示したりしながら、短作文を書く機会を増やす。 ・授業での復習プリントや家庭学習プリントを使って、文法や漢字など既習した言語事項について復習する機会を増やす。
	B (活用)	○「書くこと」「読むこと」「言語文化と特質に関する事項」に関する項目は県平均、全国平均を上回っている。 ●記述式問題では、無回答率が県平均、全国平均を上回るものがある。	
数学	A (基礎)	○「数と式」、「図形」に関する項目は県平均、ならびに全国平均を上回った。「関数」に関する項目は、県平均を上回っている。 ●「資料の活用」に関する項目は、県平均、全国平均より若干低く、設問によっては、無回答率が県平均、全国平均を上回るものがある。	・「関数」に関して、身近なデータを参考例に出し、表、式、グラフの関連について徹底した指導をしていく。また、授業の中で問題演習を多くして、基礎力の定着と応用力を伸ばしていく。 ・記述することへの抵抗感をもつ生徒が多いので、自分の言葉で考える、説明する、まとめたことを書く機会を増やしていく。 ・毎時間の小テストで、4つの分野からまんべんなく問題を出すなど、継続して学習できる環境を作る。
	B (活用)	○「数と式」、「図形」に関する項目は県平均、ならびに全国平均を上回った。「資料の活用」に関する項目は、県平均を上回っている。 ●記述式の問題では、無回答率が県平均、全国平均を上回るものがある。	
理科		○領域で見ると、生物的領域は県・全国平均を上回っており、評価の観点では、思考・表現と知識・理解で県・全国平均を上回っている。 ●4つの分野では、物理的領域で、県・全国平均を下回っており、評価の観点では、観察・実験の技能で県・全国平均を下回っている。	・電流に関する分野を苦手としているので、身近な実用例などを導入で扱い、興味・関心を高めることと、単元ごとの小テストを行うなど定着を図る。 ・各分野で知識の定着が図れるように、実験・観察のプリントを工夫する。

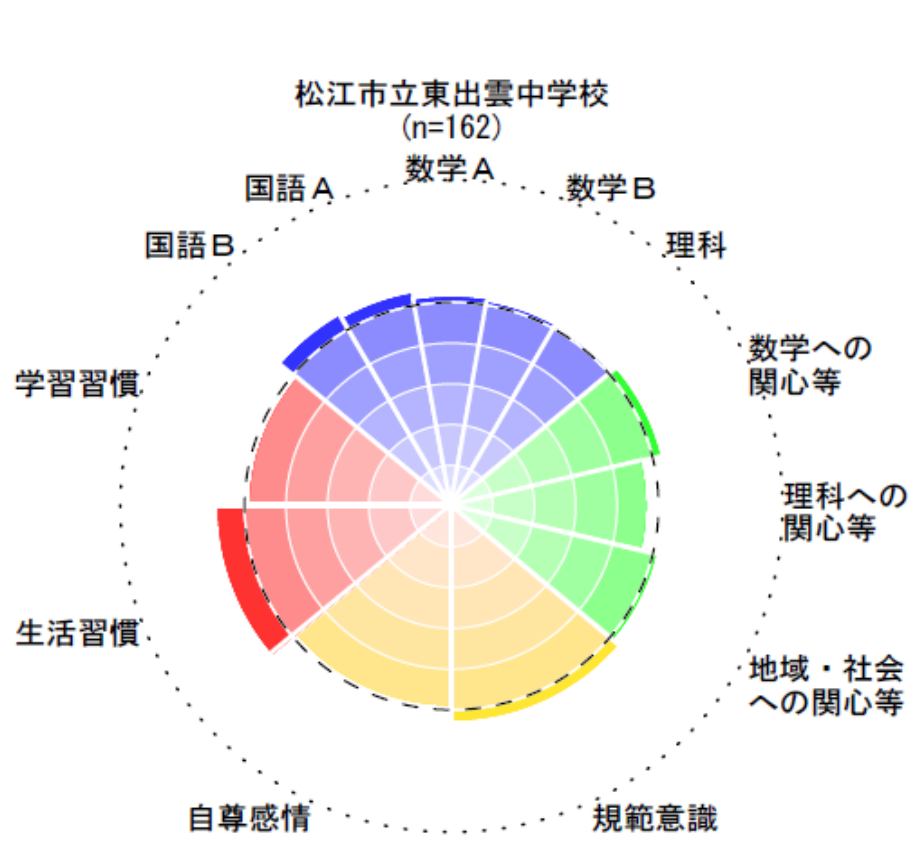
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○「地域や社会の出来事に関心がある」「数学の問題を諦めずにいろいろな方法で考えることができる」の項目について、県・全国平均を上回っている。 ●「授業の予習・復習をしている」「家庭学習1時間以上」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる」の項目に関して、県・全国平均を下回っている。	・家庭学習の重要性を生徒と共有し、学習の習慣化に向けて家庭と協力して継続して取り組む。家庭学習用ノートについて、より効果が高まるよう内容等を工夫する。 ・話し合い活動を充実させ、他者とコミュニケーションを図る力を育て、お互いに高め合う経験を持たせる。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

○学力の向上
授業での反復練習や小テスト等により、基礎学力の定着を図る。各授業で、書いたり話し合ったりする場面を一層工夫し言語活動・読解力の向上をめざす。
○キャリア教育の充実
各行事や授業でキャリア教育の観点を目標に入れて取り組む。将来への見通しや夢を持たせることで、目標に向かって努力する態度や学習意欲を高めさせる。

【参考】

○平均正答率		(%)			
		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	78	76	76	76.1
	B	64	61	61	61.2
数学	A	67	65	64	66.1
	B	47	46	45	46.9
理科		66	65	66	66.1

受検者数 164 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。